

札幌市火葬場・墓地のあり方推進協議会

第1回火葬場部会

議 事 録

日 時：2021年1月29日（金）午後2時30分開会

1. 開 会

○事務局（敦賀生活環境課長） 定刻となりましたので、ただいまより札幌市火葬場・墓地のあり方推進協議会第1回火葬場部会を開催させていただきます。

私は、保健福祉局保健所生活環境課長の敦賀でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まずは、開会に当たり、石井部会長から一言、ご挨拶をお願いしたいと思います。

石井部会長、よろしくお願いいたします。

○石井部会長 皆さん、こんにちは。

今日は第1回目の火葬場部会ということで、開会させていただきます。

従来から火葬場と墓地のあり方についていろいろ検討してきましたけれども、いよいよ具体的な行動をどう推進するかという議論になってくるかと思います。メンバーも充実しておりますので、ぜひ忌憚のないご意見をいただきながら、この会を有意義に進めさせていただければと思っております。

ズームでなかなかしゃべりにくい点があるかもしれませんが、多分、皆さん、問題なくご対応いただけると思いますので、今日もよろしくお願いいたします。

○事務局（敦賀生活環境課長） ありがとうございます。

それでは、議事に入る前に、本日は新型コロナウイルス対策としてウェブ会議形式での開催となりますため、前回に引き続き、ルールをご案内させていただきます。

ルールの一つ目に、発言時以外はマイクをオフにするようお願いいたします。

二つ目に、発言したいときは、挙手を願います。

三つ目に、発言する際には、名乗ってからお願いいたします。

次に、お手元の資料の確認をさせていただきます。

資料は、事前に郵送させていただいておりますが、まず、会議次第、委員名簿、次に、資料1から資料4、別紙1から別紙3となっております。

よろしいでしょうか。

それでは、ここからの議事進行については、石井部会長をお願いいたします。

会長、よろしくお願いいたします。

2. 議 事

○石井部会長 それでは、早速ですが、順次、議事を進めていきたいと思っております。

お手元の次第に従いまして、議事（1）の火葬場を取り巻く状況と基本目標、問題の解決手法の検討状況及び部会スケジュールの振り返りについて、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局（坂井生活環境係） それでは、議事（1）の内容について、私、生活環境課生活環境係の坂井よりご説明を申し上げます。

議事（1）の内容として、資料1から資料2までをご説明させていただきます。

それでは、資料1の火葬場を取り巻く状況と基本目標をご参照ください。

札幌市内の火葬場の概要ですが、現在、札幌市内には、里塚斎場、山口斎場の2か所の火葬場がございます。

その特徴として、里塚斎場は、築35年を過ぎており、火葬炉の30炉に対して、収骨室が8室と少なく、火葬能力にも影響しているのが実情です。

一方、山口斎場は、2006年より稼働しており、PFI、官民連携事業として運営しております。

その下の札幌市の火葬場が抱える主な問題としては、多死社会の到来による火葬件数の増加、火葬場の休場日に当たる友引の翌日である友引明け、午前中への火葬の集中、里塚斎場の老朽化と構造上の問題がございます。

まず、問題①の火葬件数の増加についてです。

図1-1は、年間火葬件数の想定を示したのですが、2054年の火葬件数のピークに向かい、増加の一途をたどっておりまして、この想定下では、一方の斎場の休止を伴うような改修工事をする事は、運営上困難です。そのため、2斎場は稼働し続けながら、火葬件数の増加に対する施設整備や運用改善を行う必要があります。

続いて、右側のページに移りまして、問題②の友引明け、午前中の火葬の集中についてです。

図1-2は、2018年度の日別の火葬件数を整理したものです。

火葬件数の多い友引明けと少ない平日とでは、1日当たり最大98件もの差が生じており、今後、この傾向は顕著になると考えられます。

また、図1-3は、2017年度の時間帯別出棺件数を示したグラフです。

葬儀場での告別式の開始時刻が9時、10時に多いため、午前中に来場者が集中する傾向となっており、混雑緩和のための火葬ピークの平準化が必要な状況です。

続いて、問題③の里塚斎場の老朽化と構造上の問題についてです。

問題点としては、待合へ向かう人と収骨へ向かう人の動線が交錯することや、収骨室が少ないこと、建物が築35年を過ぎていること等から、施設の建て替え、改修を計画的に進める必要があります。

以上を踏まえ、火葬場の基本目標、施策の方向性として、基本目標には、多死社会においても安定運営可能な火葬場の実現を掲げております。

問題の解決手法の具体的な検討、取組状況は、次の資料で説明いたしますが、先の総会でもお話がありましており、今後、この基本目標に対する成果指標の設定も必要になるものと捉えております。

それでは、続いて、資料2の問題の解決手法の検討状況と部会スケジュールについて説明いたします。

火葬場の基本目標に係る施策は、CからHの6点に整理されております。この中で、Cの里塚斎場の建替・改修手法と、Fの火葬場の運営手法については、本年度事業として外

部業者へ調査を委託しておりますので、その結果を踏まえ、次回以降に協議を進めさせていただく予定です。

また、Hの火葬場の施設整備や運用改善に係る費用についても、その調査結果で示される概算をもとに協議を進めたいと考えております。

なお、Gの火葬場の広域利用については、自治体間での協議を中心とし、その内容について、適宜、当部会でご報告させていただきます。

以上を踏まえ、今回の部会では、Dの火葬場の友引開場とEの火葬場の予約システムを中心に協議を進めてまいりたいと思います。

これらの詳細については、この後の議事の中でご説明を申し上げます。

最後に、火葬場部会のスケジュールについて共有させていただきます。

次回の部会は3月末頃で、その後、計3回の部会を開催し、パブリックコメントを経まして、2022年3月の運営計画の完成、公表を目指しております。

議事（1）の説明は以上となります。

○石井部会長 ただいま、最初の議事の火葬場を取り巻く状況と基本目標、問題の解決手法の検討状況及び部会スケジュールの振り返りについてご説明いただきました。

文字どおり、これまでの検討の振り返りに当たる内容になりますが、何かご質問がございましたら、お願いいたします。

（「なし」と発言する者あり）

○石井部会長 具体の検討内容はこれからの話になると思いますが、何かございましたら、これ以降にでも、適宜、お申し出いただければと思います。

では、議事を進めさせていただきます。

議事（2）は、予約システム導入についての検討になります。

これについて、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局（坂井生活環境係） それでは、議事（2）の内容として、資料3と別紙1から3のご説明をさせていただきます。

まずは、資料3の「混雑緩和について（予約システム）」をご参照ください。

火葬件数増加に伴う火葬待ち増加の懸念について、現状では、火葬場の受付は到着順となっておりまして、友引の休場や午前に来場者が集中している等の理由から、車の中でお待ちいただく火葬待ちの発生がございます。

図3-1は、火葬の一連の流れを示したものです。

おおまかな流れとしましては、まず、火葬場に到着した後、入場までは、車内で待機させていただきます。ロビーに入場した後は、告別室へ移動し、火葬、冷却が終わり次第、収骨に移っていただくという流れです。特定の時間に来場者が集中しますと、火葬炉が全て埋まってしまいますので、以降の入場ができなくなり、車の中で待機する時間がより長く発生することになります。

資料の中段より下の辺りに山口斎場の車内待ち時間の例を記載しておりますが、この説

明に当たりまして、別紙1をご参照いただきたいと思います。

こちらは、山口斎場の火葬に係る実際の状況と2029年度の友引明けの想定でございます。

別図1-1は、山口斎場の2019年12月25日、友引明けの実際の状況です。こちらの棒グラフの一番左側の灰色の部分が車内の待ち時間を表しております。右側に進むにつれて、ロビーでの待ち時間、告別室の使用時間と進行していきます。

この図に黒い吹き出しでコメントを挿入しておりますが、10時頃から11時頃に来場者が集中した結果、車内で最大1時間1分お待ちいただいたという実績がございました。

このページの右側には、この実績をベースに、山口斎場の2029年度の友引明けの状況のモデルを掲載しております。

このモデルは、対策などを実施せず、そのまま火葬件数が増えた状況を想定しておりますが、最大の待ち時間は2時間18分と長時間にわたるだけでなく、10時以降に到着した来場者の多くが、車の中で1時間以上お待ちいただくという想定になっております。

ここで一旦、資料3の説明に戻らせていただきます。

中段になりますが、2019年度の実績に対して、2029年度の想定では、1日の火葬件数は48件から87件に増え、車内での待ち時間は平均18分から1時間6分、最大の待ち時間も1時間1分から2時間18分と大幅に増えることが想定されますので、混雑緩和の施策を検討する必要があります。

そこで、左下の火葬件数増加に伴う課題と解決策ですが、火葬待ち時間の短縮に対しては予約システムの導入、火葬件数のピークの平準化に対しては、友引開場という施策を対策に据えております。これらの施策は、一方のみ解決すればよいという性質の課題ではないため、両施策を並行して進める必要がございます。

続いて、右側のページは、火葬場の予約システムの導入についてです。

ここで、導入のイメージとして、別紙2をご参照いただきたいと思います。

別紙2は、予約システムのイメージを表したものです。

まず、火葬までの流れですが、現状では、葬祭業者から火葬場へ出棺時間を連絡し、通夜、告別式の後、火葬場へ移動します。到着順に受付をするため、混雑していた場合は、バス、車内で待機することがあり、将来的にはさらなる長時間化が懸念されます。

予約システムを導入した場合は、予約した時刻に合わせて火葬場へ移動しますので、バス、車内での待ち時間は短縮化され、混雑を回避することが期待されます。

続いて、予約システムの画面イメージを掲載しております。

事業者ごとに登録されたID情報をもとにログインし、空き状況を確認しましたら、当ページ右側の予約詳細画面へ進みます。申込み情報の詳細入力が完了しましたら、予約完了メール、予約済み一覧から確認することができます。

なお、この内容はあくまでイメージですので、実際に着手する際には、システムの構成や手法の検討が必要です。

それでは、資料3へ戻らせていただきます。

資料3の右の(2)政令市での予約システム導入状況についてですが、19市中、16市が予約システムを導入しており、導入目的は、火葬件数増加への対応や業務の効率化、特定の時間に集中する車列の解消等、札幌市の課題とも合致しているところです。

続いて、(3)の葬祭事業者へのヒアリング結果ですが、メリットとして、バスの待ち時間の短縮や業務の効率化が期待されるというご意見をいただいております。

一方、デメリットとして、葬儀の時間調整が難しくなることや、午後に執り行うことが多い繰上げ法要のサイクルが変わってしまうといったご意見をいただいておりますので、このような懸念事項への対策や説明が求められているところです。

その他の意見として、火葬場の開場時刻を早めるなど、午前の活用を求めるご意見等をいただいております。

続いて、(4)の予約システム導入によるシミュレーションですが、ここで別紙3をご参照いただきたいと思います。

別紙3は、予約システムを導入した場合の2029年度の友引明けの想定です。

左側の別図2-1のグラフは、先ほどの別紙1の右側の図と同じものを再掲したものでありまして、バス、車内での最大待ち時間が2時間18分であることを示しております。

右側のページの別図2-2は、予約システムを導入した山口斎場の理想モデルで、30分ごとに受付枠を設けることにより、各枠内で発生する待ち時間が最大30分程度となりますので、懸念している車内の待ち時間の短縮が見込めるものとなっております。

それでは、資料3に戻らせていただきます。

一番右下の部分は、現状と調査結果を踏まえた予約システムの検討事項ということで、火葬ピークの平準化に向けた予約システム導入の必要性について、及び、予約システム導入に伴う懸念事項の対策について、検討を進めさせていただきたいと思っております。

資料の説明は以上でございます。

○石井部会長 それでは、火葬ピークの平準化に向けた予約システム導入の必要性について、協議を進めていきたいと思っております。

火葬件数の増加に対する施策の必要性は、これまでも議論しており、認識を共有していると思っておりますので、予約システムについて、ぜひ忌憚のないご意見をお聞かせいただきたいと思います。

早速ですが、口火を切っていただくということで、中島委員からご発言をいただけますか。特に、デメリットとして挙がっていることは、議論の大きな手がかりになるかと思っております。

○中島委員 予約システムに関してですが、我々業者としては、皆さんの理解が大体得られているのかなと思っております。

ただ、日中であれば、ネットやFAXなど、いろんな手法を使って予約をすることによってスムーズにいく部分もあると思っておりますが、実際問題、夜中に亡くなる方の場合、朝一

番でお寺様と打合せ等をし、時間を決めさせていただくのが現状だと思うので、それから時間予約を取ることによって、タイムラグが発生してくるのかなど。親戚等に連絡を取ったりするときにも、皆さん、早めに連絡をつけて日時を決めたりするのが普通なのですが、遅れて連絡を取る形になるので、その辺が懸念されるとおっしゃっている組合員の方がいます。

それから、予約に関しては、このような現状を考えると仕方がないのかなというのが我々組合員の意見です。

○石井部会長 時間の感じが少し分からないのですけれども、最初にどこの時間から決まるのですか。

○中島委員 まず、遺族と葬儀社が時間をある程度決めて、お寺様もしくは宗教者と時間のすり合わせをして、親族の方に何時から始まるよという連絡を取るのです。例えば、夜中や朝方に明日と決まって、親族の方に連絡を取っても、間に合わない方が出てくるのではないかということをおっしゃっていると思います。

○石井部会長 いずれにしても、火葬場の時間が最初に決まっていたら、時間決定プロセスとしては、不具合が少なくなるという理解でよろしいですか。

○中島委員 基本的に、火葬場が開いている時間に出棺されることを考えると、例えば、宗教者に時間の確認をするのであっても、法事などを抱えていると時間変更を余儀なくされるということが多々あるのですね、土・日に関しては。それに合わせてやると、また手間がかかるのではないかという意見があったということです。

○石井部会長 ただ、それは、システムの問題とも言えないですね。

○中島委員 システムではなくて、要は、葬儀社も家族も、打合せして変更になるというのは、それだけ手間がかかるということかと思えます。

○石井部会長 逆にいうと、予約システムを入れて、空いていれば時間変更できるというオプションがあれば、柔軟性を持ってできるということになるのですか。

○中島委員 そうですね。儀式は、遺族と葬儀社だけで行うものではなく、あくまでも宗教者の方がいらっしゃらないとできないので、我々は、宗教者の時間に一番融通して儀式を行うという形になっています。

○石井部会長 では、そこら辺の微調整のプログラムをどこまで入れるかについては、要検討だという理解でよろしいですか。

○中島委員 そうですね。空き状況によると思うのですが、例えば、朝早く、午後からなどの火葬場が空いている時間でも、今度は宗教者との折り合いがつかず、遺族の希望している時間にできない場合はどうなるのかなど。

○石井部会長 分かりました。

いずれにしても、システム的に対応できることをどう考えるかと、運用上、少しノウハウをつくっていかないと解決できないみたいな話ですかね。

○中島委員 そうですね。この予約システムを導入するのであれば、スムーズに行うため

に、我々葬儀社も少しずつ慣れていかなければいけないのかなと理解しております。

○石井部会長 いずれにしても、事前の議論の中では、ある意味、当事者である葬祭事業者の方々はどんな感じなのかというのが一つのベースの議論だったかなと思います。

○中島委員 先ほど言ったように、感覚としては比較的いいですね。

○石井部会長 では、続きまして、澤委員、ご意見をお願いできますか。

○澤委員 私も、例えば、駐車場で1時間、2時間待ちという状況よりは、事前に予約していただいたほうがいいなと思っています。

ただ、中島委員がおっしゃったように、時間の決め方ですよね。例えば、FAXだとややこしくなるけれども、スマホか何かで夜中だろうが朝方だろうが今の空き時間が見られて、仮予約を入れられて、そこでお寺と話してという微調整ができるなら、やりやすいのかなと思っています。

それから、予約できるのは葬儀社さんだけなのですか。前もお話したかと思うのですが、例えば、流産や死産をされた方が、赤ちゃんが本当に小さいため、葬儀社さんに頼むまでもなく、自分たちで直接火葬場に連れていったというお話を伺ったことがあります。そういう葬儀社さんに頼まないケースは、そんなに多くはなく、本当に少しだと思いますし、今までは突然でも受け入れてくれていたのだと思いますが、予約になると、そういった方たちはどうするのかというのがあります。

○石井部会長 システムの作り方については、これからの話で、可能性ということになりますので、誰が予約してという弾力性の考え方について、事務局から答えられる範囲でコメントをいただけますか。

○事務局（相馬斎場担当係長） 今のお話は、まさに他都市の状況等も調べているのですが、基本的には、死産ではなく、お亡くなりになった大人の方、12歳以上とかの方については、予約システムで予約する形が多いと思います。

死産に関しては、ご遺族が電話等でこれから行きますという形でやっているところが多いので、それをシステム化するという方法もありますし、従前どおりという方法もあります。ただ、午前中が増えてくる中で、ある程度、時間帯の調整は出てくるのかなと考えております。

○石井部会長 山上委員、ご意見がありましたら、お願いします。

○山上委員 私も、待ち時間の表を見ると、とんでもないくらい待つことになっているので、やはり予約システムの導入は必要なのかなと思っています。

ただ、この予約システムを導入するだけで、本当に平準化ができるのかなと。やはり午前中に集中するというのはなかなか変わらないのかなと思うので、資料3の右側のページの(3)の(イ)の二つ目にあるように、直葬や法要をしない方は13時以降に回っていただくようなすみ分けをシステムの中でどうやって実現していくのかというところのほうに大事かなと思っています。これが実現できるようなシステムならば、平準化の目標は達成しやすいのかなと思いますが、通常の予約システムだけであれば、空いているところか

ら早い順番にという形になりかねないのかなと思いますので、いいか悪いかでいうと議論があると思いますが、私個人としては、例えば、午前と午後でお金の面で少し差をつけるというの、考えとしては必要なのかなと思います。

○石井部会長 システム上、どこまでできるかというのは、事務局も今はまだ分からないかもしれませんが、料金なんかは難しいでしょうか。

○事務局（相馬斎場担当係長） 今、山上委員がおっしゃっていたように、午後の利用料金を安くということは考えられるのですが、何分、札幌市では現在、市民の火葬料が無料となっております。次回以降、いろいろな資料がそろった段階で、料金や今後の市民負担の在り方について議論する場面が出てきて、それとの兼ね合いになってくるのかなと思います。現状としては、午前と午後で分ける手法についてはなかなか難しいなと思っています。

○石井部会長 要は、料金を設定するときに、そういうことを織り込むことは可能だということですね。

○事務局（相馬斎場担当係長） そういう形でやるのも一つの方法だと考えています。

○石井部会長 いずれにしても、今後の議論のときに拾わせていただくということで、進めていきたいと思います。

続きまして、古本委員、お願いいたします。

○古本委員 僕は、両親のときに里塚をしましたが、特に母のときは霊柩車の中でかなり待ちが入ったので、この予約システムは、個人的にはおおむね賛成です。

課題として考えられることは、レアケースになるのかもしれませんが、例えば、予約が仮も含めて入って、時間の変更や一部キャンセルが出たときに、受皿であるシステム側が、空いたところにまた別の人を入れるとか、平準化できるような形で時間の集中を避けるようなハンドリングができるかどうかというのが懸念されます。

もう一つ、予約の仕方や手法に関しては統一しておいたほうがいいのだろうなと思います。例えば、インターネットからにするのか、電話やファックスからにするのか、ばらばらになると、多分、受皿側が混乱するのかなと思うので、僕からは懸念される点としてその2点を挙げさせていただきます。

○石井部会長 システムにある程度は組み込めるとは思いますが、むしろ検討課題ということで、システムを組むとしたらそういう要素を織り込んでもらうという論点として出させていただいたということかと思います。

予約方法をどうするかというのは、事務としてどう許容できるかみたいなこともあると思いますが、事務局としては、やるとしたらどんな感じを考えておられるか、そこだけコメントをいただければと思います。

○事務局（相馬斎場担当係長） 先ほど中島委員もおっしゃっていたとおり、昼間しか予約ができない形では、どうしても偏りが出てしまいますので、それを避ける意味では、やはりネットでの予約を中心に、24時間予約ができるようなシステムにしたいと考えてお

ります。

ただ、電話とかを全く受け付けないのかという話については、先ほど澤委員もおっしゃっていたように、死産などもありますので、ものよっての分けは必要なのかなと考えています。

今、お話しいただいたことを参考にしながら、そういう部分が網羅できるようなシステムにしていきたいと思っております。

○石井部会長 使い勝手や事務としてどう進めるかという意味では、多分、重要な論点なので、そういうふうをお願いしたいと思います。

では、小林委員、お願いします。

○小林委員 私も皆さんのご意見と同じです。これだけの時間をバスで待機するというのは、デメリットに挙げられているように、法要サイクルが崩れてしまいます。ただ、結果的には、予約システムを導入しても同じことかとは思っていますので、あとは、どう見える化をしていくのかということかなと。高齢化が進んでいることは、多分、市民の皆さんもよくご存じのことだと思いますし、今、斎場が逼迫しているということが見て取れば、すんなり受け入れられるのではないかなと思います。

あとは、前もって予約枠を確保するのをどう防ぐかですね。予約が上手な業者が評判になってしまうというのは、多分、本来の目指すところではないと思いますので、公平性を確保しながらどうやって予約を入れてもらうのかというところが難しいところかなと思っております。

○石井部会長 誰が予約するかという意味では、変な言い方ではありますが、火葬すべき方がおられなければ予約が成り立たないわけですから、ある意味では、システム上、それをきちんと押さえるということはどう位置づけるかについて、ちゃんと考えなければいけないということだと思います。

いずれにしても大事な論点ではあると思うので、ご意見をありがとうございます。

上田委員、最後なので、まとめていただいても結構です。

○上田委員 私も基本は賛成です。私が気になっていたことは、もう既に皆さんから出ていました。

昨年、私の祖母が亡くなったときは、たしか先に火葬場を予約して、それに合わせてお坊さんに来てもらったので、導入されると、もしかしたら、スケジューリングのタイミングもこれまでとは変わってきたりするのかなと思いました。

また、今、石井部会長がおっしゃっていた、まさに誰がいつ予約できるのかという話と関連するのですが、すごく特殊なケースとして、私は、以前、首都圏に住んでいる知り合いの方から、火葬場の予約ができる日に合わせて延命装置を切るという話を聞いたことがあります。要は、逆になってしまっているのですね。私は、そのとき、火葬ができるタイミングで死ぬ日が決まってしまうというのは、すごいことだなと思いました。札幌市の場合、そういうことは生じないかもしれませんが、将来的には、予約システムでいつが空

いているかを見て、それによって人の命が決まってくるみたいな時代が来たりするのかなと。結局、死ぬ前に予約ですよ。分からないですけれども、今後、もしかしたらそんなケースが生じてしまったりするのかなと思いつつ、先ほどのやり取りを聞いていました。

○石井部会長 上田委員が最後におっしゃった辺りは、多分、近未来としてある話というか、そうなったら困るという意味も含めて、どう回せるかという話なのかもしれません。

東京なんかの状況を聞くと、そういうことを考えざるを得ないぐらい、いつ自分の番が回ってくるのだ、みたいなことがあるように聞いています。札幌では、今のところそういうことがないけれども、将来的にそれに近いことが起きかねないというのが前提条件ですから、いろいろやってそうならないようにということで、どこまでできるかということで、多分、こういう手法もかなりよく考えて位置づけることになろうかと思っておりますので、確かに、今のようなことも入れると、留意すべき課題は、案外もう少し広げて考えていかなくてはいけないのかなと思っております。

基本的には、関係する事業者の方がどんな感じなのかということですが、まとめていただいたペーパーでは、デメリットのご発言も結構多かったので、どうかなという感じもありました。ただ、中島委員からは、ある程度周りのことも踏まえたご意見をいただいて、そこら辺のところを少し払拭できましたので、むしろどういう形でいい予約システムを導入できるかということかと思っております。

いずれにしても、火葬ピークの平準化は非常に重要ですし、車中での待ち時間の短縮も、サービスの向上という意味では非常に重要かと思っておりますので、今日いただいたご意見を十分踏まえて検討していただくという整理でよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○石井部会長 よろしいようでしたら、こちらは、留意事項をきちっと踏まえながら検討を進めていただくことにさせていただきます。

関連する議事になりますが、次の友引開場に向けた検討に議論を移らせていただきます。

こちらについても事務局からご説明をいただいた上で、意見交換をしたいと思います。

ご説明をよろしく願いいたします。

○事務局(坂井生活環境係) それでは、議事(3)の内容として、資料4のご説明をさせていただきます。

資料4の混雑緩和について(友引開場)をご参照ください。

まず、友引明けの火葬集中の懸念についてです。札幌市でも過去に友引に開場していたことがあります。当時の火葬件数は少なかったこともあり、現在、友引は休場日としております。

休場日につきましては、職員の休日や設備のメンテナンスに充てているところでありますが、友引明けには2日分の火葬が集中してしまうという現状がございます。

図4-1は、資料1から再掲した2018年度の日別火葬件数のデータでございます。

資料1の説明のとおり、火葬件数の多い友引明けと少ない平日とでは、1日当たり最大

98件もの差が生じておまして、今後、この傾向は顕著になると考えられます。

続いて、その下の友引開場に向けた検討についてですが、(1)の市民アンケートの結果では、図4-2として、友引の火葬に抵抗がある方、ない方は、ともに4割程度いっしょという結果が出ております。

その隣の図4-3では、友引の日に火葬を行ってもよいと思う方が4割程度いっしょという結果が出ております。

右側のページの(2)の友引開場のメリット・デメリットについては、葬祭業者と火葬場からいただいたご意見をまとめております。

メリットとしては、友引を開場することで火葬件数ピークの平準化が期待されるということで、認識は共通しているかと思えます。

デメリットとしては、葬祭業者によっては、開場日数が増えることで、休日を取りづらくなるのではというお話もございます。

一方、火葬場としては、定期的なメンテナンス方法の見直しが必要であることや、従事者の確保など、課題を挙げていただいております。

これらを踏まえた友引開場の検討事項といたしまして、火葬集中解消のための友引開場の必要性について及び友引開場の設定時期や開始時期について検討を進めさせていただきたいと思えます。

なお、資料の右側の中段より下につきましては、友引開場の手法について触れております。こちらの内容は各論の部分になってまいりますので、今回は参考という形で掲載しております。

(ア)の開場方式としましては、稼働日を増やす方法、振り替えて休場日を設定する方法が考えられます。

(イ)の開場施設数としましては、1施設開場する、あるいは、両施設を開場するという方法も考えられます。

(ウ)の開場日数としましては、冬の期間限定など、時期を決めて開場する方法や、毎月定めた日を開場するといった方法が考えられます。

また、友引日の開場実績といたしまして、2007年から2008年の冬期に開場した実績を図4-4に載せております。全体平均としては1日当たり42.6件という実績に対して、友引の日は19.8件という結果が出ております。

資料の説明は以上です。

○石井部会長 火葬集中解消のためのもう一つの方策ということで、友引開場の必要性について協議をしたいと思えます。

実情としては、むしろ休場日があることが理由になって、火葬が集中してしまうということで、運用の見直しが必要なのではないかというのが基本的な問題意識かと思えます。懸念等もあるかと思えますが、それぞれのお立場でご意見をいただきたいと思えます。

こちらの議論について、最初に澤委員からご発言をお願いします。

○澤委員 友引に関しては、大分前に、うちの会から札幌市に友引に開けてくださいと陳情をしたことがあります。その理由としては、友引明けはすごく混雑するというのと、友引は縁起が悪いというのは、迷信だし、意味も間違っているんで、そういうのを行政が利用して休みにしなくてもいいのではないかとというのがありました。一般の方に対して、友引とはこういう意味だよとちゃんと説明すれば、皆さん、分かってくださると思いますし、今、結婚式も大安や仏滅にこだわる人はあまりいないのではないかなと思うので、「友引」などという言葉はやめてしまったほうがいいのではないかなと思っています。

そして、私は、浄土真宗の僧侶なのですが、僧侶の立場からしてみても、友引という言葉はやめて、例えば、月曜日は休みとか、第1・第3木曜日は休みというほうが納得いくのですよね。

また、職員の方の休みが減るのではないかとというのは、デパートとかでも、ずっと開いているところは、皆さんでちゃんと休みを順繰り取ってやっているわけですから、問題ないのではないかと思いますし、葬祭業者も、人数が少なく、お一人とか二人でやっているところはきつくなってくるのかなと思いますが、それでも、うちはこの日は休みなのでちゃんとやっていただくとか、ほかの業者を紹介していただければ、回っていくのではないかなと思っています。

それから、札幌市は、休まないで電気系統などのメンテナンスができないと言っていたのですが、昔、陳情のときにほかの自治体を調べたら、全部を閉めなくても、例えば、その日は火葬炉の5基分を休んだりしながら順繰り点検作業をしているので、特に1年間休まなくてもできるのですという説明をされていました。そこは火葬炉の仕組みが違うのかもしれませんが、そういう工夫をすればできるのではないかなと思ったりしています。

○石井部会長 実際に月曜日の定休日で行っているところはあるのですか。

○澤委員 第1・第3月曜みたいな感じで、友引と関係なくやっているところがありました。

○石井部会長 それで回っていたという感じですか。

○澤委員 そうですね。自治体によっては、友引は意味がないですよと大きく出しているところもありました。

○石井部会長 続きまして、古本委員、いかがでしょうか。

○古本委員 僕も友引開場に賛成です。これまでの慣習の中で、友引に対する利用の抑制の意識を持っている札幌市民はかなりいるだろうという仮説を持っていますので、札幌市としてそういった方々の意識を変えるような教育活動や取組をどれぐらいやるかによって、友引開場での利用者も増えていくのではないかなと思っています。

ただ、単純に友引に開けてこの問題が解決するというのではなく、やはり市民の側の意識を変えるような施策についても両方の軸で回していかないと、なかなか利用の促進にはならないかなと思っています。

○石井部会長 今の意識を変える活動なり、努力が必要ではないかというご意見に対して、

事務局からコメントがありましたら、お願いいたします。

○事務局（相馬斎場担当係長） この資料のアンケート結果を見ても、過去に開けていたときのことも含め、半分近くの人には抵抗があると考えているというのがありますし、やはり札幌市民は友引に対して慎重なのだというのが分かります。

ここに関しては、総会でやることになっている葬送全体に関する意識醸成・市民啓発という部分と絡んでくる話だと思いますので、友引を進めて行く上では、そういう観点で扱っていくことが必要かなと考えています。

ですから、各論ということで、先ほどの説明の中でも、どういう方法を取るかというのは、これからの議論にはなっていくとは思いますが、一律に最初から開けるというのは現実的ではないのかなと考えているところもあります。

ただ、我々も、今、友引明けが混雑しているという現状があるからこそ、こういうことを考えておりますので、前向きに検討していく中で、どういう方法がいいのか、そして、市民に対する意識啓発をどういうふうにしていくかについて、皆様方のご意見等を伺いながら、しっかり対応していきたいと考えています。

○石井部会長 小林委員、お願いします。

○小林委員 事務局の方に教えていただきたいのですが、なぜ、2007年から2008年だけ友引に開けて、1年でやめられたのか、何か理由があるのですか。

○事務局（相馬斎場担当係長） このときは、2年間、里塚斎場を完全に止めて、大規模改修を行っておりました。当時は十何年前で、1斎場であればぎりぎり回せる状況だったので対応できたのですが、さすがに友引まで閉めてしまうと回せなくなる可能性があったため、その期間については開場したという経緯がございます。

○小林委員 こういう問題は、個人的には、合理性だけでいい悪いとはなかなか言いづらかなと思っていますのですが、これだけ斎場が逼迫しているというところから議論が始まっているのであれば、やはりできるだけ火葬できる日を増やしていく方向で議論するのがいいのではないかと考えております。

また、どれくらい抵抗感があるのかというところではありますが、どちらかというところ、友引だから休んでいますというほうが、市民の理解を得るのは難しいのかなと感じております。

○石井部会長 山上委員、お願いします。

○山上委員 友引は迷信ですが、抵抗のある人が一定数いるのはやはり仕方がないのかなと感じますし、例えば、休みを減らしていくといっても、ゼロにするのは難しいのだろうと思っています。

先ほど出ていた意識醸成という観点からしますと、やはり友引の日に閉まっていることにより、やっぱりだめなのかなという意識が働くのかなと思いますので、卵が先か鶏が先かみたいな話ではないですが、やはり友引開場をすることは、意識を醸成するきっかけになるのではないかなと思います。

また、2007年から2008年の開場をしていた時代から十数年がたって、葬儀の方式も、例えば、家族葬や直葬などの小さなお葬式がかなり増えてきています。昔ながらの大々的な葬儀みたいなところでいうと、友引に引っかかりを覚える人はたくさん出てくるのかもしれませんが、十数年前と比較すると、そういう抵抗は減っているのではないかと思いますので、友引開場はやったほうがいいのだろうなと思っております。

○石井部会長 中島委員、お願いします。

○中島委員 我々の業界の話をする、友引を基準に会議とかを設けたりしているのですが、現状としては友引前でなくても会議とかを行っています。

また、先ほど、友引開場についていろいろおっしゃっていましたが、札幌市のアンケートでは、気にしない方が約4割という話でした。いざ葬儀を行うに当たっては、どなたか親戚のおじさんに当たるような方に、友引なんか駄目だよという声を強く出されたり、周りにそういう意見が多いと、本人はやりたくても、日を改めて葬儀を行うような方もいらっしゃるのかなという気がしています。

あわせて、我々葬儀社の方からは、例えば、今、29基、30基の炉がある中で、半数ぐらいの小さな火葬場を建ててもらったほうがいいのではないのかという意見がありました。要は、新火葬場を造ってもらうということです。そうすることによって、全体の緩和にもなるし、友引を1日だけ開けるという形でやったほうが手取り早いのではないのかという意見もありました。

その中で、実際問題、以前は閉まっていた友引が急に開くことによって、例えば、札幌市、もしくは、葬儀社も含めて、市民の方への告知など、皆さんで広めることにより、友引に利用する方の件数が増えていくのかなという気がしております。

○石井部会長 意識醸成というご指摘がありました。私も事前の打合せで事務局と議論したのですが、やはり時間はかかるけれども、慣れみたいなことは必ず起こってくるので、望ましい方向が明確であれば、少し時間がかかってもゆっくりやればいいのかと思いますし、中島委員もそういう意味での積極的なご指摘だったかと思えます。

では、上田委員、お願いします。

○上田委員 私は、出身が九州だから分からないですが、特に抵抗はなく、開けてもいいと思っています。

先日、祖母が亡くなったときに、友引に普通に火葬をやっていますというお話をされていて、地方差も大きいのかなと思いながら聞いていました。

また、私は、山上委員がおっしゃっていたとおりではないかなと思っていて、さらにいうと、今回の予約システムも一緒に始まった、すごく影響があるような気がしています。今までは何も見えない中で選んでいたと思いますが、予約システムで可視化されることにより、別に開いているならこの日に入れようかなという人も増えていくのではないかなと思いました。

○石井部会長 基本的には、私自身もあまり抵抗感がないので、必要があるならやってみ

るということではないかと思っています。逆に、どれくらい抵抗感があるのかということ、本当にやってみないと分からないので、そういう状況を押さえながらどう進められるかということ、むしろ上手に動かしながら考えていけばいいのかなという感じを持っています。

いずれにしても、委員の皆さんのご意見としては、そんなに抵抗感なり反対意見はなかったようですし、むしろ増加する中で混雑を緩和するというミッションも明確にあるので、協議会の方向感としては、ぜひ実現に向けて進めていただくという整理にさせていただきたいと思います。

議論のシナリオとしては、いつ頃に開始するのかについても預けていただいています。

先ほど、上田委員がおっしゃったとおり、予約システムをどう入れていくかというスケジュール感については、どちらかという、私自身もやれることから順次やるという考え方を持っていますが、そんなに時間に差がないのだったら、一緒にどんとやったほうが、むしろ抵抗感が案外少ない形で受け止めていただける可能性があるのではないかと思います。

皆さんのご意見を伺う前に、予約システムを入れるとしたら、作業にどれくらいかかるとお考えになっているのか、コメントをいただけますでしょうか。

○事務局（相馬斎場担当係長） 今回、いろいろと資料をつくっていますが、昨年、基礎的な調査をやっています、その中で札幌市の状況について調べましたところ、予約システムを入れたときに火葬件数が何件ぐらいはできるだろうという前提の下で動いているということです。

予約システムについては、今回の議論を踏まえ、導入の方向で進められるかなと考えていますので、今後、システム的なことを検討するのであれば、やはり札幌の午前中の集中をどう緩和していくか、また、午後をどう利用していくか、それをシステムにどのように盛り込んでいくかということが一番重要なことと思っています。そこについて、いろいろな業者の情報を収集しながら、札幌に合ったものをつくっていく形になろうかと思います。その準備を来年度、そして、実際に業者に仕様を発注した上でやるので、最短で2年ぐらいかなと考えています。

○石井部会長 最短で2年ですか。試行的なことも含めて、もう少し早くすることは難しいですか。2年はそんなに長い期間ではないですが、こういう話は、やっぱりやるときにぱっとやるほうがいいと思います。予算を取って進めるとなると、最短で2年ぐらいかかる感じですか。

○事務局（相馬斎場担当係長） やはり予算的な問題もありまして、今の時点で来年度の予算の要求ができていないのが正直なところです。行政の立場としては、やはり2年ぐらいの時間が必要かと考えています。

ただ、それもあくまで最短ですので、私自身としてはできる限りそれに近づけたいと考えているのですが、今後の調整次第というところはあるかと思います。

○石井部会長 僕たちは、その意味では、圧力団体なので、あまり行政になめられないように意見を言うべきなのだろうと思います。

逆に、友引開場をどう進めるかについては、これはこれでぱっとやってもらい、予約システムはでき次第という考え方もありますが、中島委員、ご意見はありますか。

○中島委員 予約システムに時間がかかるのは分かりますが、友引の開場については、委員長がおっしゃったとおり、1年もかからないですぐできるのかなという気がしております。

その中で、我々の組合としても意見が多々あるのですが、例えば、火葬場のお部屋代、もしくは、火葬料徴収も同時に進めていただきたいと考えております。

○石井部会長 火葬場に係る改革は、むしろ一遍にやってもらわないと困るという理解でよろしいですか。

○中島委員 そうです。

○石井部会長 澤委員、どうですか。

○澤委員 市民の側からすると、火葬場は減多に使うところではないので、むしろ業者さんの混乱を避けるために、一遍にしたほうがやりやすいのかなと思います。

○石井部会長 時期について、ほかにご意見がございましたら、お願いします。

上田委員、いかがですか。

○上田委員 先ほど澤委員がおっしゃっていたように、結局、従業員の方の休日という話になりますし、当たり前ではありますが、決定すれば、それに向けた仕組みの組み直しや対応する時間も必要になってくると思うので、関係者には、ある程度の方針が固まったら事前に通知する必要があるなど思っていました。

○石井部会長 ほかにいかがでしょうか。

予約システムについては、頑張って最短で進めていただくということかと思いますが、友引開場は、課題としては別の話ですから、ほかに変更があるのであれば、できるだけ一括で変更することにして、やるとしたら速やかに取り組んでいただくという整理でよろしいでしょうか。逆にいうと、時間を合わせるために動かせることも動かさないというのはあまり意味がないと思いますので、やれることから一個ずつ変えていくという整理にさせていただきます。

○事務局（大竹施設課長） 先ほど来、ご議論をいただいています友引開場については、運営側としては、友引開場に向けて検討を進めるに当たって、メンテナンスの仕方とか、人の確保などがあります。ただ、人を確保するには予算的な面もありますので、すぐに開始できるような状況にはないところです。

○石井部会長 すぐというのは、今日の明日というつもりで申し上げたわけではないのですが、やれないという意味でしょうか。

○事務局（大竹施設課長） 検討に1年程度はかかるのかなという考えです。

○石井部会長 そういう意味ですね。必要な時間を取っていただくことについては、特段、

異論はありません。いずれにしても、全体の混雑緩和の方策としては、ぜひ取り組んでいただく一つのターゲットではないかと思っています。

ただ、やり方については、人の問題等々もあると思うので、そういう制約を上手に埋められるような友引開場、極端に言えば、試行的な運用から始めていただいてもいいのではないかと思いますので、少し時間をかけて、どこまで持っていくかというシナリオを整理しながら進めていただければと思います。

○中島委員 2会場を開場するのではなく、例えば、様子を見ながら一つの火葬場だけを開けていただいたほうがいいのかと思います。

○石井部会長 私は、そういうことも含めて、まずは試行的に始めて、ニーズが少しずつついてきたら、さらにどうするかということで、究極は、友引は関係ないというところまで持っていけたらいいのですが、そこは最初からあまり急いでやらなくてもいいのかなと思っています。

いずれにしても、まずは一歩進めていただくことが、ある種、変えるきっかけになるかと思っています。これまでの議論において、せっかく一つの論点としてやってきたことですので、ぜひ進めていただければと思います。

それでは、本日の議事は以上となります。

ある程度の方向性を出しましたが、そういったことも含めて、ご意見やご質問等がございましたら、お願いいたします。

○事務局（坂井生活環境係） 中島委員にご意見を伺いたいと思います。

友引開場をやるに当たっての市民の方のアンケート結果がありますが、例えば、葬祭業者やお寺さんで何かお考えになっていることやご意見があるようでしたら、お聞かせいただければと思います。

○中島委員 まず、友引開場については、先ほど澤委員がおっしゃっていたように、宗教的には、仏教、キリスト教は関係なく、今は全く気にしていない状況だと思いますし、我々業者についても、今現在、バスの中で何時間も待っているというのを理解していますので、友引の日に開場されるのであれば、それが少し緩和されると思っています。

また、先ほど言ったとおり、予約制を導入することによっての緩和ということも理解しているので、我々が反対というレベルではないと思うのです。やはり市民のためにいかに効率よく行えるかということになるかと思うので、今、議論している中においては、組合としても大多数が賛成で、また、宗教者にも賛成していただければと思います。

○石井部会長 ほかにいかがですか。

（「なし」と発言する者あり）

○石井部会長 事務局から何かございましたら、お願いします。

○事務局（相馬斎場担当係長） 時間がまだありますので、資料2を出していただき、次回以降の議論についての説明をさせていただきます。

今日の議論であるDとEに関しては、今回の話を踏まえて進めさせていただきます。

また、今年の3月に結果が判明する話なのですが、まず、里塚斎場の建替・改修手法と火葬場の運営手法について、今、みずほ総合研究所に、山口斎場のPFI導入可能性調査と里塚斎場の施設整備の2点について、委託の検討を進めているところです。

山口斎場については、先ほどご説明させていただいたとおり、昭和59年、1984年から使っている施設で、今、36年目ということになります。里塚斎場の建物自体の強度としては、建てたときから50年なので、あと15年は建物として問題ないという結果が昨年度に出ています。そうした状況ではございますけれども、現状、建物自体に大きな不具合が出ている状況にはございません。

ただ、当然、50年くらいが建物としての寿命ということを考えますと、35年を過ぎていることとなりますので、今後、里塚斎場の次の建物をどうしていくべきなのか、建て替えが必要なのか、改修で済むのか、あとは、里塚の現在の建物についてそのまま改修しながら改修できるのかという検討を委託でやっており、その結果が3月に判明にする形になります。

また、山口斎場は、令和7年度末で今のPFI事業が終了します。これも同じ委託とはなりますが、次回もPFIという形で民間の事業としてやっていただけるのか、今現在のPFI手法について、どういったメリット、デメリットがあるのか、どれくらい費用がかかるのか、あとは、PFIの中身について、どのような対応ができるかについて、今、議論しているところです。

この2点につきましては、3月に結果が判明することとなりますので、その部分について議題として報告させていただき、次回以降の会議でまたご議論いただければと考えています。

最終的にHの火葬場の施設整備や運用改善に係る費用ということになるのですが、今回の委託によりまして、里塚斎場の建て替え、もしくは、改修の費用について、そして、山口斎場の時期、運営手法、当然、山口も20年ぐらいたちますから、大きな修繕も必要になってくるかと思えます。その分の費用について検討を進めることとなりますが、ある程度の概算の費用が出てくるということで、まずはハード面の費用がそこで示されると思えます。

それに加えて、今、お話しさせていただいた友引開場や予約システムにどれくらい予算がかかるのかということになりますけれども、これについては年度が変わった後の時点で議論になるかなと考えております。

火葬場部会については、今後、そういった形で話を進めていきたいと考えています。

○石井部会長 まだまだ検討課題があるということですので、引き続き、忌憚のないご意見をいただければと思います。

それでは、次回の部会について事務局からお願いいたします。

○事務局（相馬斎場担当係長） 今、話したとおりですが、次回以降の会議については、その結果を踏まえてとなりますので、3月末辺りにできればと考えています。

その後については、その時点で日程等を調整させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいいたします。

最後に、総会の関係で話がございますので、担当の道から報告させていただきます。

○事務局（道企画担当係長） 総会のお話で恐縮ですが、前回1月7日に開催しました総会の対応について説明させていただきます。

第1回の総会で出されたご意見のうち、福田委員からお話がありました、ロゴ、キャッチコピーにつきましては、近々、各委員にメールにてご意見を募ろうと考えています。ご協力をよろしくお願いいいたします。

○石井部会長 総会のときに話がありました、これからどう広報活動をしていくか、どんなチラシにするかについて、進めていただくということです。私なんかは、キャッチコピーがかなり苦手なので、意見を出せないかもしれませんが、市民の方が身近に捉えることができるようなアイデアをお出しいただければと思いますので、ぜひご協力をよろしくお願いいいたします。

予定時間より少し早いのですが、今日、予定していたテーマに関しては、十分ご議論をいただいたと思います。ご協力をありがとうございました。

新しく入っていただいた2名の方については、多分、臨場感がないかもしれませんが、この会は、忌憚なく意見交換をするということですからずっとやらせていただいていますので、次回リモートになるかもしれませんが、ぜひご意見をいただければと思います。

3. 閉 会

○石井部会長 これをもちまして、第1回火葬場部会を閉会させていただきます。

今日は、長時間にわたり、ありがとうございました。

以 上